

## 「2019 千葉県台風・豪雨災害支援基金」(第3次) 助成事業報告書

提出日 2022年 3月 2日

団体名	NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団			
代表者	役職	理事長	氏名	竹内聖一

助成事業名	沖ノ島森の再生「学びのプロジェクト」～沖ノ島森の再生から地域の未来を据える～			
助成金額	500,000 円			
事業実施期間	2021年 7月 1日 ～ 2022年 2月 28日			

### 【1】事業概要

※申請書の「事業概要」を踏まえ、実際に実施した概要を記載ください(500字以内)。

<p>●「沖ノ島森の再生学びのプロジェクト」活動内容概要</p> <p>①2021年11月27日(土) 沖ノ島森の再生「学びの場プロジェクト」①沖ノ島森の再生ワークショップ開催(指導を交えた内容)</p> <p>②2021年12月18日(土) 沖ノ島森の再生「学びの場プロジェクト」②沖ノ島森の再生ワークショップ開催(自分たちで活動)</p> <p>③2022年1月24日(月) 沖ノ島森の再生「学びの場プロジェクト」③沖ノ島森の再生ワークショップ開催(指導を交えたまとめ活動) 計3回開催した。</p> <p>●会場 千葉県館山市沖ノ島の再生区で実施した。</p> <p>●対象 地域の自然環境再生などに興味がある方、高校生の有志に参加を募った。</p> <p>●内容 土中環境を視点とした自然環境再生の手法を全3回で実践活動を行った。</p> <p>●様々なチャンネルで広報した。(地域新聞 FB ホームページ SNS 口コミ)</p> <p>●沖ノ島の再生活動への地域サポートと、地域の環境再生の為に実践者、賛同者を26人育成した。</p> <p>●新型コロナウイルス感染症予防対策についてのガイドライン作成し、ガイドライン沿った対策を行った。</p>
---

### 【2】実施内容

※実施内容(時期・対象者・何を・どのように)、数値的な実績(スタッフやボランティアの人数・参加者数・成果物の数量等)、連携した組織等について具体的に詳細をご記入ください。

沖ノ島の風倒木調査を森の専門家である NPO 法人地球守に依頼、原因究明を行い、原因は、台風の影響だけではなく、沖ノ島自体の乾燥からの環境悪化によるものと判明した。島の環境改善には、岩盤や地中の乾燥を取り除き「土中環境」に視点を当てた再生活動をすることが、未来の森づくりにつながることがわかり、現在、沖ノ島では、館山市と、地球守とともに 50 年後を見据えた自然の回復力を引き出すための島の森の実践的な再生活動をスタートさせている。

#### 【準備】

- ・ 9 月 館山市・NPO 法人地球守と連携しながら打ち合わせにて活動内容を決定した。
- ・ 11 月 団体ホームページ、フェイスブックページ、地域新聞にて広報を行った。(※1)

#### 【実施】

##### ●11/27 (土)

参加者数 16 人 スタッフ 7 (たてやま・海辺の鑑定団) 実践指導者 7 (NPO 法人地球守)

##### ・活動内容

9:00 から 16:30 頃までの活動

実施エリアは、10 月の 2 日間実践活動で行ったエリアで行った。(その時は外部募集無しで実施)

最初に、何故この活動を行っているのかの意味を、参加者に対して理解をしていただくためのガイダンスを行った。その後、土中環境改善のための斜面への施し実践した。10 月に剥がしたコンクリートかけらを石積みとして再利用し、水が染み込むための改善を行った。この手法は、自然と寄り添う昔ながらの工法で、水の流れと浸透を意識し、自然の力で土地を安定させながら、改善していくやり方。これを理解しながら参加者ともども実践した。

##### ●12/18 (土)

参加者 16 人 (安房高有志 12 人含む) スタッフ 7 (たてやま・海辺の鑑定団) 実践指導者 1 名 (NPO 法人地球守)

##### ・活動内容

9:00 から 16:30 頃までの活動

11/27 の活動の続きを実施した。千葉県立安房高等学校への告知も行った。活動目的の再確認を行い、前回に引き続き動揺の石積みと、今回はマウンドづくり(樹木が育ちやすい環境の有機物を挟み込んだ盛り土)の実践活動を行った。さらに自分たちで改善のやり方を考える活動内容とした。

##### ●1/24 (月)

参加者 7 人 スタッフ 6 人 (たてやま・海辺の鑑定団) 実践指導者 9 名 研修者 2 名

##### ・活動内容

9:00 から 16:00 頃までの活動

冬季の里山メンテナンスに関して、実践した。落ち葉や枯草を活用し、暖くなる前の準備を行った。小さな土地の起伏や、水に流れ、空気の流れを感じながら自然の力を引き出すための改善を行った。今までの内容を一歩進めた内容となった。

#### 【まとめ活動】

今後、沖ノ島だけではなく地域での活動を見据え実践者のとりまとめを行った。(26 人登録) これからの沖ノ島を含めた地域の再生活動に活かしていきたい。

※新型コロナウイルス感染症対策を十分行った上で実施した。

### 【3】成果(助成事業の自己評価)

※助成事業の目標（申請書に記載の「目指す状況」）の達成度について、以下 A～C のいずれかに印をつけ、その理由について具体的にご記入ください。

達成度	<input type="checkbox"/> A. 想定以上の成果が得られた <input type="radio"/> B. 概ね実施計画とおりの成果が得られた <input type="checkbox"/> C. 思うような成果が得られなかった
理由	<p>当初の計画よりも日程が、変更になったが、沖ノ島での実際の森の再生活動を、「学びの場」として、提供することができた。3 回の実施により、再生自体も進んだ。また、一般の参加者が、加わることで、考え方、やり方を伝えることができたと考えている。</p> <p>今回参加いただいた皆様とのつながりによって、結果、環境再生活動に関わる参加者を「仮称・うみかんメイト」（環境再生に係る人材のリスト）を作成することができた。</p> <p>継続した再生活動と学びの場の継続につながることを期待できる。</p>

#### 【4】事業の総括・振り返り

※助成事業全体を振り返り、課題の設定、事業計画に対する実際の活動結果、成果の達成具合を振り返り、どの点がよかったのか、もう少し工夫が必要だったのか、今後改善するとしたらどのような点があるか等の総括を記載ください（500 字以内）。

<p>令和元年房総半島台風（2019 年台風 15 号）では、沖ノ島のみならず、地域の山林の倒木も多く発生している。台風自体も大きな自然の力を見せつけた。沖ノ島での風倒木の発生と、現在行っている再生活動は、自然に対する向き合い方を改めて、学びなおす機会を提供してくれている。この手法は、これからの持続可能な社会づくり「ローカル SDGs」の実現とも合致している。</p> <p>【よかった点】</p> <p>この沖ノ島の改善活動を通じて、参加いただいた皆様が「自分事」として出来ることを感じる事ができた。それぞれが、未来の自然環境ためにことを考えるきっかけとなったと考えている。今後「仮称うみかんメイト」としての沖ノ島活動の継続と、地域エリア内での実践活動を期待できる。</p> <p>【工夫が必要な点・改善点】</p> <p>成果はあったものの、それぞれの開催の日程の確定に時間がかかり、情報提供が遅くなってしまったので、そこは、早めの設定が必要だった。そのためか最終日は平日となってしまったこともあり 3 回シリーズであったが、3 回とも参加できる方がいなかったため、今後は繰り返しお声がけさせて頂き、沖ノ島の継続した再生活動に参加して頂くようにアナウンスする。</p>
---

#### 【5】今後の展望と次の活動予定

※助成で取り組んだ課題における今後の展望とそれに対する今後の活動予定

<p>今、沖ノ島を中心に行っている活動を、エリアとして捉えることで、ローカル SDGs を鑑みた活動へとつなげることができる。一方これからの地域社会は、自然環境を未来に引き継ぐことを前提として、域内循環と自立が大きなテーマとなると考えている。</p> <p>今後は、沖ノ島以外のエリアで、環境再生活動と、環境再生活動が自立する仕組みづくりをすすめたい。環境保全を持続可能な形で続けられる仕組み「ローカル環境ビジネス」を育成すること、また、その実証を行いたいと考えている。</p>
---

#### 【6】広報実績

広報内容	内容
1. メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	2021年11月23日（火） ・記事名：「沖ノ島森の再生へ」 ・媒体：房日新聞 ※1 2021年12月2日（木） 記事名：「沖ノ島森の再生へ」 ・媒体：房日新聞 ※2 2021年12月6日 ・NHK 首都圏ナビ ※3 <a href="https://www.nhk.or.jp/shutoken/chiba/article/001/75/">https://www.nhk.or.jp/shutoken/chiba/article/001/75/</a>
2. 広報制作物・報告書等、当該事業費を使って制作したもの	本事業では成果物は作成していません。

※成果物制作の場合 5 部提出

活動の様子がわかる写真を 5～6 枚程度を添付または別途データをお送りください。

●11/27（土）



（活動の意味を説明）



（集合写真）

●12/18（土）



（石積みのやり方説明）



（集合写真）

●1/24（月）



（メンテナンスの説明をする高田氏）



（集合写真）

## 【7】 寄付者へのメッセージ

※本助成金の原資は多くの個人や企業の寄付によるものです。ご支援くださった方々へのメッセージをお願いします。

この度は、まことにありがとうございました。

今、自然環境は、気候変動や生物多様性の維持など多くの課題に直面しています。その課題は、多くの方々が「自分事」として捉え、それぞれ「出来ること」をしていくことが重要です。しかし、そのためのきっかけ作りとなるような、ローカルな環境再生活動を継続して続けていくためには、資金が必要です。そして、このような活動からは資金を直接すぐに生み出すことは難しいと感じています。

今回の助成のような仕組みは、このような活動を継続するためには大変ありがたい仕組みだと思います。ご支援くださいました皆様には、この場を借りてではございますが、御礼を申し上げます。

【その他】本プログラムや当財団への要望などありましたら、自由に記入してください。

繰り返しの内容になってしまいますが、今、自然環境は、気候変動や生物多様性の維持など多くの課題に直面しています。その課題は、多くの方々が「自分事」として捉え、それぞれ「出来ること」をしていくことが重要です。しかし、そのためのきっかけ作りとなるような、ローカルな環境再生活動を継続して続けていくためには、資金が必要です。そして、このような活動からは資金を直接すぐに生み出すことは難しいと感じています。そのための仕組みとして、今回の助成金は大変有効であったと感じています。また、使途の自由度が高かったこともよかったと思います。続けるためには、何等かの形で資金を生み出し自立することが必要ではありますが、そのための過渡的な、資金として有効であったと思います。

今後も、ローカルな環境再生など、未来のまちづくりにつながる支援をお願いいたします。

## 決算報告

### 収入

費目		金額(円)
2019 千葉県台風・豪雨災害支援基金助成金		500,000 円
その他	自己資金	9,980 円
収入合計		509,980 円

### 支出

費目	算出根拠	金額(円)
謝金(報償費)	22,000 円×15 人(①②)+25,000 円③	355,000 円
交通費	10,000 円×7.5 台 ④⑤	75,000 円
材料費	焼き杭(2 尺) 660 円×12 本⑥	7,260 円
材料費	ウッドチップ 4,400 円×0.4 m <sup>3</sup> ⑦	1,760 円
消耗品費	消耗品・諸経費 4,400 円⑧ 2,200 円⑨値引き 200 円⑩	6,400 円
材料費	竹炭代 2000 円×10⑪ 燻炭代 5,500 円⑫	25,500 円
人件費	930 円×7h×2 日 3 人(運営スタッフ) 鈴木すみえ⑬ 板東美砂子⑭ 島瀬五郎⑮ 鈴木すみえ⑯ 板東美砂子⑰ 馳川美波⑱ ※振り込み額は他の活動も含めた総額です	39,060 円
支出合計		509,980 円

※領収書の写しを添付してください。

株高田造園 明細は別途請求書を参照

② ⑬ ⑰  
④ ⑩ ⑥ ⑦ 株高田造園 明細は別途請求書を参照  
⑧ ⑮

竹炭代 ⑪

⑬

⑭

⑱

⑮